

川マガ東京句会 平成18年11月11日

〈出席者〉

五十嵐淳隆 山口千枝子 南野耕平 村田倫也  
井出ゆう子 甲野竜雄 伊藤三十六 三浦哲夫  
関 玉枝 棚瀬くんじ 加藤品子 高田宣子  
石田きみ 菅井京子 渡辺まもる 小倉利江  
阿倍闘句郎 植竹団扇 松橋帆波

宿題「鍋」 南野耕平選

「佳作」

デコボコのアルミの鍋が捨てられぬ 品子  
大道の芸に食われた社会鍋 淳隆  
闇鍋の底にCIVがいる 帆波  
主婦の腕見抜いた鍋が吹き零れ 利江  
鍋一つ和洋中華も作るシェフ 竜雄  
年金を手鍋に入れてさようなら 三十六  
鍋の底磨いてノラを諦める 利江  
焦げついた鍋にまだある夫婦愛 三十六  
つつかれていると機嫌のいいお鍋 淳隆  
鍋敷用 畳一畳芋煮会 宣子

「秀句」

向かい合う鍋に溶け込む蟠り まもる  
熱燗よし鍋よし妻も機嫌よし 千枝子  
万国の汁が効いてる鍋のつゆ 京子

「特選」

寄せ鍋で辞職願が浮き沈み 闘句郎

軸吟 鍋囲む中に一人のアルカイダ 耕平

「没句評」

作品全体を見て、没句の理由を五つに分けました。

一、状況の説明

爛鍋が肩まで浸かるおでん鍋

とても温まる句なのだが、川柳としては淡いの  
ではないか。

西日差す三畳鍋は一つだけ

寂しさが出ているが、川柳としては淡い。もっ  
と寂しさを出して欲しい。

一、鍋の要素のあしらい不足。

鍋にしておけば新妻褒められる

「鍋は簡単」からの飛躍が欲しい。

鍋囲む湯気に溶けてる笑い声

「鍋は盛り上がる」からの飛躍。

一、鍋奉行の作品。

取り分けに魂胆見える鍋奉行

鍋奉行を詠むのであれば、ありきたりではなく  
深く、そして毒が欲しいところでした。

一、時事と鍋を詠んだもの。

鍋底になると繁盛パチンコ屋

時事であれば突っ込みが欲しい。

親方も弟子も一緒にちゃんこ鍋

ちよっとフレンドリーすぎるか。

一、その他

豚汁が足を引っ張る文化祭

文化というで考えたが、意味が取りづらかった。

団欒鍋精力鍋に美肌鍋

いろいろなものを並列的に並べるのは読み手  
によってどうか。

五分間吟「万能」 安部闘句郎選

「佳作」

内科外科田舎の医師にそつがない きみ  
万能の熊手はだだのゴミ集め くんじ  
自家野菜万能ネギの自己主張 京子  
ここの温泉は万能という客の混み きみ  
子育ても主婦もこなして女です 利江  
便利屋で万能だから金がない 団扇  
嫁に行っても機械が全部してくれる 千枝子  
パソコンは全て教えるけもの道 ゆづ子  
替え玉に万能ネギも追加する 帆波  
万能鍋で炒め料理しかない ゆづ子  
フライパン焼いたり煮たり蒸らしたり 京子  
質問に全て答えてくれる彼 ゆづ子  
クロールも平もメタボが泳ぎ切る 淳隆

「秀句」

万能のハサミのような妻が居る 品子

万能に一能欠けて落ちこぼれ まもる

通販の包丁やたら切りすぎる 帆波

「特選」

何にでも役立つ彼を飼っている 京子